

## 『映像きもの学2010』 - 全29巻 -

殿水 重之      西澤 嘉真      林原 充和  
前田祐加子      山前 梨沙

(近藤晴夫ゼミ)

## 1. はじめに

きものが民族の衣装として日本の歴史と風土の中で磨かれつつ今日に至ったその歩みを縦軸とし、伝統的な形態の中で独創的に表現される染織文様や色彩を横軸として、繰り広げられるきものの実に多様で奥深い世界について学び、そして、職人さんや工芸家をはじめ、きものに関わる多くの人々のそれぞれの思いにも直接触れられる機会をもとうとするのがこの講座のねらいです。皆様と共に、きものに体现される現代日本文化の精髓に迫ることができればこの上ない幸せと思います。

2010きもの学コーディネーター

京都学園大学経済学部教授 日本きもの学会会長 波多野 進

(『2010 きもの学 基礎講座』レジュメ、「きもの学」受講に際してより抜粋)

## 2. 「きもの歴史」

着物という名称は 着るもの という意味を含めて生まれたものと思われる。

着物は日本の衣服のなかで、洋服に対して和服を指すものであり、明治以来、大正・昭和と着物という名称が生活の中に定着してきた。欧米人にもキモノと呼ばれ、日本趣味に興味を持った親日家の間でもてはやされる存在であった。

これが十九世紀末のジャポニズムの波に乗り、日本のキモノは華麗に外国へデビューし、帯を胸高に巻いた西欧婦人の肖像画や浮世美人の立姿を模した油絵などが見られた。

戦後には、アメリカ映画の映像にキモノの一枚着を室内着としてであろうか、ひらひらと着流しているシーンが映されていた。帯の代わりにベルトが飾り紐を用いている様子は新鮮な驚きであった。

二十世紀も後半になると、女性の社会進出は盛んになり、女性の着物離れの傾向が進んだ。衣服は社会や生活様式が変わると、それにともなって適合した衣服に変化していくものである。

しかし、着物は日本人にとって一種の郷愁であり、離れがたいものがある。そのように考えるのは、明治、大正、昭和の半ばまで、つまり二十世紀の前半までに生まれた女性たちであり、たとえ筆筒のこやしになるうとも、大切に帖紙に包んだまま放したくないと考えている。リサイクルショップに預けてしまうなどとても考えられない。あわただしく日を過ごす働く女性も、休日にはふと自分を変えてみようとする。こころみに、和服をおしゃれ着として着てみる。現代社会に登場する着物は、特別な意味で、やはり言葉で言うならば、「癒し」の衣服として存在することがある。

(『図説 着物の歴史』より抜粋)

### 3. 「私たちのきもの」

今の私たちにとって“きもの”という存在は非日常的なものです。きものを着る機会といえば、夏祭りの浴衣や、成人式の振袖、卒業式の袴など限られたときにしかありません。特に成人式や卒業式できものを着る機会があった女子学生とは違い、私たち男子学生に関しては全くと言っていいほど着たことはありません。その理由の一つは若い男性が着るきものにイメージを持っていないということがあります。ニュースなどで取り上げられる成人式できものを着た若い男性が騒いでいるという印象が心のどこかにあり、あまり良いイメージを持っていないということ。その反面、男女ともにきもの=位の高い人が着るもの、高貴なイメージがあり、日常的に着るというイメージを持たず、きもの離れしているというのが私たちの現状です。このきもの学を通じて日本の伝統文化であるきもの魅力を再認識し、きもの離れしていた私たちが、きものとの距離を縮めることができればという思いから、この「きもの学」に参加しました。

## 「2010きもの学」講義内容

8月31日(火)～9月18日(土)

火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
8/31	9/1	9/2	9/3	9/4
きもの概念① 「男のきもの」 着物伝承家 オフィス早坂 代表 日本きもの学会 常任理事 早坂伊織	きもの概念③ 「きもの着装体験」 会場：大谷婦人会館	きもの概念④ 「日常の手入れと 仕立ての知識」 装賀きもの学院 院長 安田多賀子	きもののできるまで① 「織物素材と白生地」 京都市産業技術研究所 繊維技術センター センター長 八田誠治	きもののできるまで③ 「手描友禰」 きもの染色技術研究家 生谷吉男
きもの概念② 「女のきもの」 (学)東洋学園 参与 樹下林子	着物伝承家 オフィス早坂 代表 日本きもの学会 常任理事 早坂伊織 (学)東洋学園 参与 樹下林子	きもの概念⑤ 「着装体験の感想と きもの学への期待」 早坂伊織 樹下林子 安田多賀子	きもののできるまで② 「先染織物 (西陣織物と他産地)」 京都市産業技術研究所 繊維技術センター センター長 八田誠治	きもののできるまで④ 「浸染・型染等 染色加工」 元京都市染織試験場 場長 梶原俊明
9/7	9/8	9/9	9/10	9/11
きもの歴史と文様① 「古代～江戸時代」 華頂短期大学 教授 馬場まみ	産地と市場① 「全国の産地と 西陣機業」 京都産業大学 教授 柿野欽吾	まとめ 「基礎講座のまとめ」	全国産地と染織① 「九州地方の 伝承染織品と文化」 京都伝統染織学芸舎 主宰 日本きもの学会 常任理事 富山弘基	全国産地と染織③ 「日本の袖織物」 京都伝統染織学芸舎 主宰 日本きもの学会 常任理事 富山弘基
きもの歴史と文様② 「明治時代～現代」 (財)西陣織物館 顧問 藤井健三	産地と市場② 「京友禰と 室町問屋」 京都産業大学 教授 柿野欽吾	きもの考① 「京のきものぐらし」 服飾評論家 日本和装協会 会長 市田ひろみ	全国産地と染織② 「加賀友禰の美学」 一加賀友禰作家の 作品から考察する— 加賀友禰「由水十久」語り部 日本きもの学会 正会員 能登一彦	全国産地と染織④ 「絞りの世界」 京都絞り工芸館 館長 吉岡健治
9/14	9/15	9/16	9/17	9/18
日本染織史① 「京都の染色」 (社)日本工芸会 正会員 京都工芸美術作家協会 理事 羽田登	日本染織史③ 「THE いしろう」 一きもののできるまで— 京都伝統産業 ふれあい館 学芸員 北川満哉	きものと文化・産業① 「作家として生きる 産地として生きる」 (社)日本工芸会 正会員 小千谷織物同業協同組合 副理事長 (株)樋口織工藝社 取締役社長 樋口隆司	きものと文化・産業③ 「季節を楽しむ きもの」 一日本の暦を見直す— 日本きもの 編集・発行人 日本きもの学会 常任理事 清田のり子	きもの考② 「これからの 和装教育を考える」 NPO 法人和装教育 国民推進会議 議長 近藤典博 他
日本染織史② 「時代装束 一染織祭衣装—」 一きもの染織美を追って— 京都伝統産業 ふれあい館 学芸員 北川満哉	日本染織史④ 「近代京都画壇と 染織工芸」 美術史家 海の見える杜美術館 学芸顧問 今井淳	きものと文化・産業② 「世界の民俗衣裳 から見たきもの」 帝塚山大学 教授 日本きもの学会 副会長 植村和代	きものと文化・産業④ 「きものと落語」 落語家 (社)落語芸術協会 会員 桂 歌助 着物伝承家 早坂伊織	まとめ 「発展講座のまとめ」

## きもの概念 「男のきもの」

着物伝承家

オフィス早坂 代表

日本きもの学会 常任理事 早坂 伊織

和文化に親しむにも、日本人としての心に触れるにも、「きもの」は、日本文化共通の財産です。「きもの基本」に対する考え方、文化、教養実技などの多彩な内容で「男のきもの」を学びます。

## きもの概念 「女のきもの」

(学) 東洋学園 参与 樹下 林子

女性のきもの魅力は、着姿の色気、コーディネートやオリジナルに溢れた衣服です。

TPOに合わせたきもの着方、きもの名称、きものから生まれた言葉について学びます。

## きもの概念 「きもの着装体験」

オフィス早坂 代表

日本きもの学会 常任理事 早坂 伊織

(学) 東洋学園 参与 樹下 林子

きものについてより深く知るために、希望者は実際にきものを着装し、きもの着方・帯の結び方について解説します。

## きもの概念 「日常の手入れと仕立ての知識」

装賀きもの学院 院長 安田多賀子

8枚の布から構成される直線仕立てのきもの。その構造があつての名称、収納、必要な小物が見えてきます。勿論立ち居振る舞いも同様です。きもの構造から見える知識について学びます。

## きもの概念 「着装体験の感想ときもの学への期待」

着物伝承家

オフィス早坂 代表

日本きもの学会 常任理事 早坂 伊織

(学) 東洋学園 参与 樹下 林子

装賀きもの学院 院長 安田多賀子

日本のきものは、世界的に特異な形態と装飾が見られる衣服だといえます。

「女のきもの」を見ながら、基礎知識やTPOについて学びます。また、きもの着方・帯の結び方について解説します。

## きもののできるまで 「織物素材と白生地」

京都市産業技術研究所繊維技術センター

センター長 八田 誠治

きものに使われる木綿、麻、ウールなどの様々な天然素材についてそれぞれの繊維の特徴や蚕の作る「まゆ」から糸ができる過程をビデオを通して学びます。

きもののできるまで 「先染織物（西陣織物と他産地）」

京都市産業技術研究所繊維技術センター  
センター長 八田 誠治

先染織物と後染織物について学びます。また、帯の主たる産地でもある「西陣織」についての組織・生産工程についても学びます。

きもののできるまで 「手描友禅」

きもの染色技術研究家 生谷 吉男

染のきものが出来上がるまでの過程と、日本各地で生産される染のきものやさしい理論とその特長をその土地における文化との関連を述べ、染色堅ろう度についても学びます。

きもののできるまで 「浸染・型染等染色加工」

元京都市染織試験場 場長 梶原 俊明

きもの染料から染める仕組み、様々な染色技法、特徴の紹介などの理解から、きものへの理解を深めていきます。

きもの歴史と文様 「古代～江戸時代」

華頂短期大学 教授 馬場 まみ

江戸時代、小袖装飾の技法として友禅染が開発されました。絵を描くように文様を表現することができる友禅染は、画期的な技法でした。友禅染出現の背景と技法上の特色を解説し、江戸時代に製作された友禅染小袖を概観します。

きもの歴史と文様 「明治時代～現代」

(財)西陣織物館 顧問 藤井 健三

きものは、もともと平安時代の貴族の下着でしたが、中世には武家の女性が表着として用いるようになりました。講義では、平安時代の衣裳ときもの成立について学びます。

産地と市場 「全国の産地と西陣機業」

京都産業大学 教授 柿野 欽吾

きものや帯の産地は、白生地産地や後染めきもの生地、先染めの産地があり、きものや帯の流通は長く細い複雑な流通であることと絹を素材にした先染め織物を特徴としている西陣について学びます。

産地と市場 「京友禅と室町問屋」

京都産業大学 教授 柿野 欽吾

同 上

## きもの考 「京のきものぐらし」

服飾評論家

日本和装協会 会長 市田ひろみ

京の暮らしの中には ごく自然に古めかしいしきたりが生きています。季節感とともに生きてきたきものぐらしを探ります。

## 全国産地と染織 「九州地方の伝承染織品と文化」

京都伝統染織学芸舎 主宰

日本きもの学会 常任理事 富山 弘基

九州地方に伝わる数多くの伝承染織品を、都道府県別に解説し、その中から見えてくる特色を教わりません。

## 全国産地と染織 「加賀友禅の美学 加賀友禅作家の作品から考察する」

加賀友禅「由水十久」語り部

日本きもの学会 正会員 能登 一彦

江戸時代から始まった友禅染をはじめ室町時代に加賀から伝わった「梅染」や染軸の製作指導の下でできる友禅画の新風を学んでいきます。

## 全国産地と染織 「日本の紬織物」

京都伝統染織学芸舎 主宰

日本きもの学会 常任理事 富山 弘基

絹織物の発祥地・中国から倭国とよばれた日本で絹糸を作る蚕の話や紀元前後の新綿の繊維をつむいだたい糸を使い原始機で織っていた可能性のある話について学びます。

## 全国産地と染織 「絞りの世界」

京都絞り工芸館 館長 吉岡 健治

年表や吉岡先生の活動などから技術と歴史を辿り、伝統産業として築き上げた現状や対策について後継者問題、技術保護、京鹿の子と有松絞りを学びます。

## 日本染織史 「京都の染色」

(社)日本工芸会 正会員

京都工芸美術作家協会 理事 羽田 登

平安時代から伝統文化を誇る京都のものづくりの精神と技術が現代文明に与えた影響と京都が今後に生きる道について京友禅のすばらしさを学びます。

## 日本染織史 「時代装束 - 染織祭衣装 -」 - きもの染織美を追って -

京都伝統産業ふれあい館

学芸員 北川 満哉

古墳時代から、奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、桃山時代、江戸時代、と時代ごとの装束を解説し、装束が時代と共にどう変化してきているかを教わります。

日本染織史 「THE いしょう きもののできるまで」

京都伝統産業ふれあい館  
学芸員 北川 満哉

きものができるまでのデザインや染などの決め方の過程や色の表現や手法をこと細かく学び、TPOとは何かを理解してきます。

日本染織史 「近代京都画壇と染織工芸」

美術史家 海の見える杜美術館 学芸顧問 今井 淳

近代の京都画壇創立に大きな役割を果たし、横山大観とともに第一回文化勲章を受章した竹内栖鳳さんを中心に明治初期の京都の画壇と京都の染織工芸界の関係について学びます。

きものと文化・産業 「作家として生きる 産地として生きる」

(社) 日本工芸会 正会員

小千谷織物同業協同組合 副理事長

(株) 樋口織工藝社 取締役社長 樋口 隆司

小千谷織物産地の縮屋や近年の小千谷織物組合の変遷など講義を通して製作者側、組合側について学びます。

きものと文化・産業 「世界の民俗衣装から見たきもの」

帝塚山大学 教授

日本きもの学会 副会長 植村 和代

世界各地の服装には、風土や歴史、文化によって巻衣や筒衣・慣頭衣などいくつかのパターンがあり、そうした世界の民族衣装のなかで、日本のきものについて学びます。

きものと文化・産業 「季節を楽しむきもの 日本の暦を見直す」

日本のきもの 編集・発行人

日本きもの学会 常任理事 清田のり子

日本の暦(旧暦)の解説や、季節によって変わるきもの着方を学び、1年を通してきものとうまく付き合う方法を学びます。

きものと文化・産業 「きものと落語」

落語家

(社) 落語芸術協会 会員 桂 歌助

着物伝承家 早坂 伊織

桂 歌助さんの噺家になったきっかけや謎解き、落語の修行についてお話をしていただき、その後実際に落語を披露していただきます。

きもの考 「これからの和装教育を考える」

NPO法人和装教育国民推進会議 議長

近藤 典博 他

きもの業界の現状や小売業の立場をまとめNPO法人和装教育国民推進会議とは何かを学び、きものをメジャーにするためにはどうすればいいのかを考えていきます。

まとめ 「発展講座のまとめ」

織道楽 塩野屋 社長 服部 芳和  
 きものステーション・京都  
 チーフディレクター 牧野 茜

ゲストの方々と共に蚕から「きもの」の衣服としての在り方について学んでいきます。

「きもの学」の中継・録画スタッフ



講義の様子とカメラマン・VTR録画・ミキサー

<中継・録画スタッフメンバー>

2007M026 殿水 重之	2007M029 西澤 嘉真
2007M031 林原 充和	
2007M070 前田祐加子	2007M062 山前 梨沙

## &lt;制作スケジュール&gt;

リハーサル 2010年8月24日(火)  
朋文館 1階ロビー

中継撮影 2010年8月31日(火)、9月2日(木)～9月9日(木)  
「基礎講座」  
キャンパスプラザ京都4階 第2講義室にて  
2010年9月1日(水)  
「基礎講座きもの着装体験」  
大谷婦人会館にて  
2010年9月9日(木)～9月18日(土)  
「発展講座」  
キャンパスプラザ京都4階 第2講義室にて

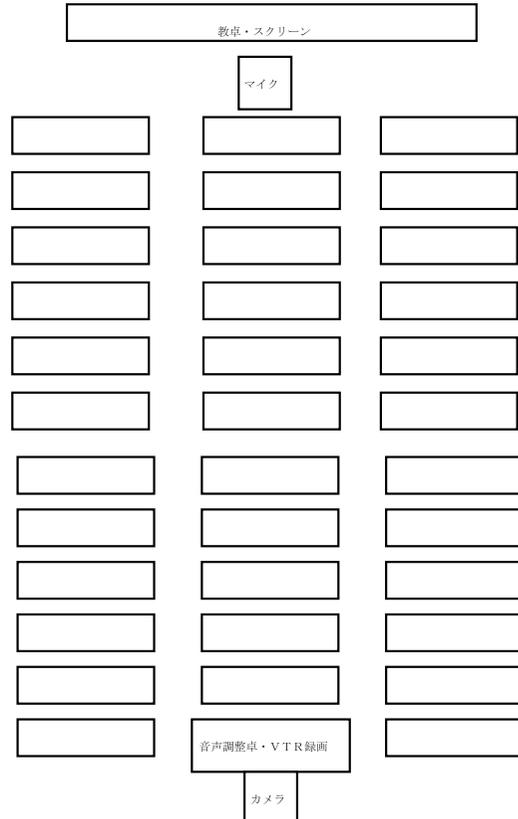
編集作業～完成 2010年10月～12月  
朋文館1階編集室にてテロップ作成、DVDダビング作業  
資料収集、キャプション原稿作成、完パケ作業

## &lt;カメラ及びマイクロフォンの配置とその役割&gt;

(キャンパスプラザ京都 4階 第2講義室)

カメラ ...会場全体、講師、  
スクリーンの撮影

ミキサー...音量調節、講師マイク



## 作品概要

### 1. きもの概念

着物伝承家

日本きもの学会 常任理事 早坂 伊織

#### 「男のきもの」



和文化に親しむために、「きもの基本」に対する考え方、文化を「男のきもの」を学び、その他にも「きもの」の手入れ、先生の私生活での「男のきもの」から「きもの」について学びました。

### 2. きもの概念

(学)東洋学園 参与 樹下 林子

#### 「女のきもの」



女性のきもの魅力は、着装の色気、コーディネートやオリジナリティに溢れた衣服であるということです。TPOに合わせたきもの着方、きもの名称、きものから生まれた言葉について学びました。

### 3. きもの概念

着物伝承家

日本きもの学会 常任理事 早坂 伊織

(学)東洋学園 参与 樹下 林子

#### 「きもの着装体験」



きものについてより深く知るために、希望者は実際にきものを着装し、きもの着方・帯の結び方について学びました。

#### 4. きもの概念

装賀きもの学院 院長 安田多賀子

##### 「日常の手入れと仕立ての知識」



「シミ抜き方法」や「保存方法」などの日常の手入れの仕方、「着物の構成」や「着物の名称」などの仕立ての知識を通じて着物を長持ちさせ着こなす方法を学びました。

#### 5. きもの概念

日本きもの学会 常任理事 早坂 伊織  
(学)東洋学園 参与 樹下 林子  
装賀きもの学院 院長 安田多賀子

##### 「着装体験の感想ときもの学への期待」



9月1日に行われた「きもの着装体験」の感想や意見などをもとに、講師のみなさんとパネルディスカッション形式で授業を進めていきました。

#### 6. きもののできるまで

京都市産業技術研究所繊維技術センター  
センター長 八田 誠治

##### 「織物素材と白生地」



きものに使われる木綿、麻、ウールなどの様々な天然素材についてそれぞれの繊維の特徴や蚕の作る「まゆ」から糸ができる過程をビデオを通して学びました。

## 7. きもののできるまで

京都市産業技術研究所繊維技術センター  
センター長 八田 誠治

## 「先染織物（西陣織物と他産地）」



先染織物と後染織物について学び、帯の主たる産地でもある「西陣織」についての組織・生産工程についても学びました。

## 8. きもののできるまで

きもの染色技術研究家 生谷 吉男

## 「手描友禅」



先染織物と後染織物について学びました。また、帯の主たる産地でもある「西陣織」についてルーツから生産の組織・生産工程についても学びました。

## 9. きもののできるまで

元京都市染織試験場 場長 梶原 俊明

## 「浸染・型染等染色加工」



きものの染料から染める仕組み、様々な染色技法、特徴の紹介などの解説から、きものへの理解を深めていきました。

## 10. きものの歴史と文様

華頂短期大学 教授 馬場 まみ

## 「古代～江戸時代」



江戸時代、小袖装飾の技法として、友禅染が開発されました。絵を描くように文様を表現することができる友禅染は、画期的な技法でした。友禅染出現の背景と技法上の特色を解説し、江戸時代に製作された友禅染小袖について学びました。

## 11. きものの歴史と文様

(財)西陣織物館 顧問 藤井 健三

## 「明治時代～現代」



きものは、もともと平安時代の貴族の下着でしたが、中世には武家の女性が表着として用いるようになりました。講義では、平安時代の衣裳ときものの成立について学びました。

## 12. 産地と市場

京都産業大学 教授 柿野 欽吾

## 「全国の産地と西陣機業」



きものや帯の産地は、白生地産地や後染めきもの産地、先染め産地等の産地があり、きものや帯の流通は長く細い複雑な流通であることと、絹を素材にした先染め織物を特徴としている西陣について学びました。

## 13. 産地と市場

京都産業大学 教授 柿野 欽吾

## 「京友禅と室町問屋」



きものや帯の産地は、白生地産地や後染めきもの産地、先染め産地等の産地があり、きものや帯の流通は長く細い複雑な流通であることと、絹を素材にした先染め織物を特徴としている西陣について学びました。

## 14. きもの考

服飾評論家

日本和装協会 会長 市田ひろみ

## 「京のきものぐらし」



きものの着付けを知らない若者たちのエピソードやそれに関わった外国の方々の思想等を語って頂き、納棺師の手法による亡くなった方への着物の着付けなどいろんな視点で見たご自身の体験談を聞き、さらにきものへの関心を深めました。

## 15. 全国産地と染織

京都伝統染織学芸舎 主宰

日本きもの学会 常任理事 富山 弘基

## 「九州地方の伝承染織品と文化」



九州地方に伝わる数多くの伝承染織品を、都道府県別に解説し、その中から見えてくる特色を教わりました。

## 16. 全国産地と染織

加賀友禅「由水十久」語り部  
日本きもの学会 正会長 能登 一彦

「加賀友禅の美学 加賀友禅作家の作品から考察する」



加賀友禅の歴史、工程、文化について能登先生の経験などを踏まえ、加賀友禅の作家の作品を通じて加賀友禅の美を学びました。

## 17. 全国産地と染織

京都伝統染織学芸舎 主宰  
日本きもの学会 常任理事 富山 弘基

「日本の袖織物」



絹織物の発祥地・中国から倭国とよばれた日本で絹糸を作る蚕の話や紀元前後の新綿の繊維をつむいだ太い糸を使い原始機で織っていた可能性のある話について学びました。

## 18. 全国産地と染織

京都絞り工芸館 館長 吉岡 健治

「絞りの世界」



ビデオをはじめ年表などから技術と歴史を辿り、伝統産業として築き上げた現状や対策について学び、後継者問題、技術保護、京鹿の子と有松絞りを学びました。また、ご自身が多くの方に知っていただくために会長を務めていらっしゃる京都絞り工芸館についても触れられ、様々な体験談をユーモラスに語られました。

## 19. 日本染織史

(社)日本工芸会 正会員

京都工芸美術作家協会 理事 羽田 登

## 「京都の染色」



京友禅の歴史、工程を学び、また羽田先生の経験、ビデオからその素晴らしさについて知ることができました。

## 20. 日本染織史

京都伝統産業ふれあい館 学芸員 北川 満哉

## 「時代装束 染織祭衣装」 - きもの染織美を追って -



古墳時代から奈良時代、平安時代、鎌倉時代、室町時代、桃山時代、江戸時代と時代ごとの装束を解説し、装束が時代と共にどう変化してきているかを教わりました。

## 21. 日本染織史

京都伝統産業ふれあい館 学芸員 北川 満哉

## 「THE いしろう」 - きもののできるまで -



きものができるまでのデザインや染などの決め方の過程や色の表現、手法をこと細かく学び、TPOとは何かを理解してきました。

## 22. 日本染織史

美術史家 海の見える杜美術館 学芸顧問 今井 淳

## 「近代京都画壇と染織工芸」



近代の京都画壇創立に大きな役割を果たし、横山大観とともに第一回文化勲章を受章した竹内栖鳳さんを中心に明治初期の京都の画壇と京都の染織工芸界の関係について学びました。

## 23. きものと文化・産業

(社)日本工芸会 正会員  
小千谷織物同業協同組合 副理事長  
(株)樋口織工藝社 取締役社長 樋口 隆司

## 「作家として生きる 産地として生きる」



小千谷織物産地の縮屋や近年の小千谷織物組合の変遷など講義を通して製作者側、組合側についての苦勞を学びました。

## 24. きものと文化・産業

帝塚山大学 教授  
日本きもの学会 副会長 植村 和代

## 「世界の民俗衣裳から見たきもの」



世界各地の服装には、風土や歴史、文化によって巻衣や筒衣、貫頭衣などいくつかのパターンがあり、そうした世界の民族衣装のなかで、日本のきものについて学びました。

## 25. きものと文化・産業

日本のきもの 編集・発行人

日本きもの学会 常任理事 清田のり子

「季節を楽しむきもの」 - 日本の暦を見直す -



日本の暦（旧暦）の解説や、季節によって変わるきものの着方を学び、1年を通してきものとうまく付き合う方法を学びました。

## 26. きものと文化・産業

落語家 (社)落語芸術協会 桂 歌助

着物伝承家 早坂 伊織

「きものと落語」



桂 歌助さんの噺家になったきっかけや謎解き、落語の修行とはどういうものなのかお話をしていただき、その後 実際に落語をしていただきました。

## 27. きもの考

NPO法人和装教育国民推進会議

議長 近藤 典博 他

「これからの和装教育を考える」



きもの業界の現状や、NPO法人和装教育国民推進会議が、どのようにきものを広めようとしているのかを学び、これからの和装教育について考えました。

## 28、まとめ

織道楽塩野屋 社長 服部 芳和  
 きものステーション・京都  
 チーフディレクター 牧野 茜

## 「発展講座のまとめ」



「きもの」の基である絹を作る生物、蚕から「きもの」の在り方、また、蚕と桑の葉の重要性について学び、1枚の「きもの」を作るのに100キロの桑の葉と4,000匹の蚕が使われているということを知ることができました。

## 終わりに

「きもの学」講座の撮影にあたり、私達は今までのゼミや授業で習っていた事をふまえて本格的な収録を行いました。メンバーのほとんどが中継機材に触れるのが初めてで、入念な打ち合わせやリハーサルを何度も行いました。しかし、本番では音声や映像が撮れていなかったり、途中で切れてしまったり、ガンマイク等の機材にもトラブルが起きました。さらに、メンバーの中で体調不良、就職活動などで休む者が出ましたが、そこは残ったメンバーで協力し、交代してカバーしあいました。

また、途切れた映像部分等は編集の時にカットして、残った部分をどのようにして繋ぎ合わせるかを話し合い、なんとか作品として完成させました。文章作成や映像編集にあたり、メンバー五人それぞれの担当に分かれ、授業を振り返りながら作業を行い、一つの作品を制作していきました。その中で、一人一人の作品に対する思いが強くなっていきました。そんな思いがあったからこそ、完成させることが出来たと思います。

「きもの学」の講義を映像制作するにあたって学んだことは「きもの」の奥深さ、日本に根付いている「きもの文化」そして「きもの」の長い歴史。一つ一つの講義を映像制作するにあたって、今まで遠くの存在であった「きもの」が、より身近に感じることが出来るようになりました。これをきっかけに今年の夏は、まず浴衣に挑戦してみようと思います。

## 謝 辞

この映像「きもの学」の制作にあたり、本学経済学部・波多野 進教授をはじめ、社団法人・全日本きもの振興会と「きもの学」講師の先生方、大学コンソーシアム京都、大谷婦人会館・大谷ホールの関係各位にご指導、ご協力いただいたことに感謝と御礼を申し上げます。

## 引用・参考文献

- 2010 『きもの学』 実施要綱
- 『2010きもの学 基礎講座』 レジユメ
- 『2010きもの学 発展講座』 レジユメ
- 『図説 着物の歴史』 河出書房出版社
- 『日本大百科全書』 小学館